









## Q5

能力検査ではそれほど難しい問題が出題されていないようですが、対策は必要ですか。

## A

「SPI」の出題傾向に沿った対策をすることをお勧めします。

「SPI」の能力検査は、小学校～中学校＋高校1年生レベルの基礎的な知識をもとに解ける出題となっていますが、次のような特徴があります。

### ① 「知識」よりも「知能」が問われる

企業にとっては、仕事を進める上で必要な資質や能力が備わっているか、論理的にものごとを考えて知恵を働かせる人なのか、採用するうえでの大切なポイントとなります。よって、「SPI」能力検査は一般的な「知識の量」より「知能」が問われる検査といえ、より多くの知識を蓄えた人が高得点を取れるというものではありません。

たとえば言語分野の「2語の関係」の問題の場合、語句の意味についての正しい知識も必要ですが、言葉どうしがどのようなつながりを持っているかにまで踏み込んで考えなくてはなりません。基礎的な知識をもとに解けるレベルではありますが、問題を解くには、知識だけではなく判断力や応用力も必要とされます。

### ② 制限時間の割に問題数が多い

言語分野も非言語分野も難問というような問題は出題されませんが、試験時間の割に数多くの問題が出されます。単純に計算すると、言語分野は1問35秒程度、非言語分野は1問60秒程度で解かねばなりません。

### ③ 独特の出題形式をもつ問題が含まれている

通常の学校の授業や試験ではあまりなじみのない、特殊な設問形式の問題が含まれているため、本試験で初めて目の当たりにすると、「動揺してしまい、あまり解けなかった」という結果になってしまいます。

能力検査の問題はある程度パターン化されているので、事前の対策を行った場合と行わなかった場合とでは、結果がかなり変わってきます。本番で十分に実力を発揮するためには、「SPI」能力検査に的を絞った準備が必要となります。

## 「SPI」対策は、民間就職以外の進路希望にも役立つ

### ① 公務員志望者への「一般知能分野」対策のスタートに

「SPI」能力検査は、教科としては国語、算数・数学に分類できますが、むしろ公務員試験の教養試験における一般知能分野(文章理解・判断推理・数的推理)に近いといえます。実際に、一般知能分野対策の手始めとして、公務員志望者も一緒に「SPI」能力検査対策を指導しているという学校もあります。また、近年では、市役所を中心として、採用試験に「SPI」を取り入れている自治体も増えています。

### ② 進学希望者への国語・数学の基礎能力指導に

希望進路が進学であっても、言語分野(国語領域)と非言語分野(算数・数学領域)の基礎能力を鍛えておくことは今後の受験勉強において役立ちます。また、上級学校進学後の就職活動の際に必要な「SPI」対策の意識啓発にもつながるため、生徒の将来を見すえた発展的なキャリア教育の一環として、「SPI」対策のテスト等を経験させておくことをお勧めします。

